

## 日本の空港 知られざる世界一

静岡空港や茨城空港の開港、前原大臣の羽田(東京国際空港)のハブ空港化発言、日本航空の経営破綻など、この一年、航空行政に関する話題がしばしばマスコミを賑わした。また今年、代々木練兵場(現代々木公園)で日本初の公開飛行が実施されてからちょうど100年、航空100年の年でもあるそうだ。国交省の統計によれば、国内には現在104の空港があり、年間1億人を超える人々が飛行機を利用している。今号はそんな空港に関するトリビアをいくつか紹介したい。

### 「20世紀世界10大プロジェクト」に選ばれた関空(関西国際空港)

アメリカの土木学会(ASCA)は、20世紀を代表する優れた土木建築として、「20世紀世界10大プロジェクト(Monument of the millennium)」を選定した。選ばれたのは、エンバイアステートビル(高層ビル部門)、パナマ運河(水路交通部門)、ユーロトンネル(鉄道交通部門)など誰もが知る世界の有名な建造物ばかりだが、何とそれら蒼々たる建造物とともに、航空部門では**関空**(関西国際空港)が選出されたのだ。世界で初めての本格的な海上空港を完成させた日本の高度な土木技術が高い評価を得た。

ただ、同じアメリカでも、技術専門誌ポピュラーメカニクスは、先ごろ「世界で最も奇妙な空港」として**関空**をその第一位に選んだ。関空は深い水深を埋め立てて造成した空港だが、完成以来すでに10m以上沈下しており、同誌によれば50年後には完全に水没してしまう恐れがあるというのがその奇妙さの理由だそうだ。厚い沖積粘土層の上に建設された空港島が大きく地盤沈下することは当初より織り込み済みのこと、当然、最新土木技術を駆使した万全の対策が取られている。しかし、その沈下は想定以上だそうで、ASCAとポピュラーメカニクス、どちらの世界一が正しいか、日本の土木技術の真価が問われている。

### 関空のトイレは世界一

実は、**関空**には他にも世界一がいくつかある。ち

よっと意外なのがトイレ。イギリスの航空関係調査機関のスカイトラックス社は、昨年、世界の約200の国際空港を対象に設備やサービスの満足度を評価する「2009 World airport award」を発表したが、その中で、関空はトイレ部門で堂々第一位に評価された。関空のトイレの個室は、幅が1.2メートルとゆったりしたスペースがとられている。大きなスーツケースでも持ち込みができ、室内には、気温差の大きな地域から到着した人が着替えができるようチェンジングボードと呼ばれる折りたたみ式の台が設置されており、旅行者の好評を得ている。

なお、手続き時間や職員の対応などが評価される出入国審査部門でも関空は世界一の評価を得ている。また、関空内のマクドナルドのハンバーガーは世界一高いそうだが、こちらの世界一はまあどうでもいい。

### 利用者数が世界一の航空路線とは

西の関空に対し、東の成田や羽田に関する世界一はないだろうか。1990年代、**成田**空港は航空貨物の取扱量が世界一であったが、現在は香港や仁川に及ばない。また、成田は着陸料が世界一高い空港と呼ばれた頃もあったが、こちらも値下げによって今は世界ワースト1を脱している。

そこで探し見つけたのが、年間搭乗客数が世界一の航空路線である。その路線とは**羽田**-新千歳を結ぶ航空路、搭乗客数は年間1000万人を超え、ボストン-ニューヨーク間を抜いて、単一路線としては1999年以来10年以上世界一の座を守り続けているからこれは凄い。この路線には平均30分間隔で一日に100便を超える大型ジェット旅客機が運行しており、これは東京-新大阪間を走る「のぞみ」の本数とほぼ同じだ。

なお、羽田は今年秋に4本目のD滑走路が完成するが、そうすると発着便数が増え、利用者数世界一の空港になるかも知れないという(現在は世界3位)。

### ●宇田川勝司(うたがわかつし)

関西大学文学部(地理学)卒業。現在は愛知県江南市立南中学校に勤務する。地理のおもしろさを多くの人に伝えようとして2001年にH.P.「日本地理おもしろセミナー」<http://ku0811.hp.infoseek.co.jp/>を開始。その後、教育雑誌や百科年鑑、新聞各紙に連載記事やコラムなどの執筆を続ける。2007年8月、「ピククリ」(海外・日本地理)を創刊社より出版する。

